J-34

カンボジアにおける陸上フローティングヴィレッジの提案
ツーリストの滞在を活かした教育施設の設計
Proposal of land floating village in Cambodia
Design of educational facilities that take advantage of the stay of the tourists

○上田紗矢香[1]，　佐藤信治[2]
* Sayaka Ueda [1], Shinji Satoi [2]

Cambodia is also now that the civil war has ended, not kept pace to resolve the education problem. This is missing or of the school, the lack of the number of teachers, is the cause and that the understanding of the education of adults is poor. So now, the city many areas away from the parts are at present not to rely on education by foreign volunteers. on the other hand this country is growing in many fields, such as tourism and garment industry in the. country in the future development is expected that's why volunteers are required education cycle to provide education without resorting to assistance, such as. Therefore, in this proposal is going to the approach to the solution of education problems taking advantage of the tourism industry, which is supporting a large Cambodian economy.

１．はじめに

カンボジアは内戦が終結した今も,教育問題の解決が追いついていない.これは学校の不足や,教員の数の不足,大人達の教育に対する理解が乏しいことなどが原因である.そのため現在,都市部から離れた多くの地域は海外ボランティアによる教育に頼らざるをえないのが現状である.一方でこの国は観光業や縫製業など多分野で成長している.今後発展が期待される国だからこそボランティアなどの支援に頼ることなく教育を行う教育サイクルが必要である.そこで本提案ではカンボジア経済を大きく支えている観光業を生かして教育問題の解決にアプローチをしていく.

２．計画背景

２−１．内戦によって抱える教育問題

カンボジアでは 1970 年代に起きた独裁政権の歴史背景によって,現在も多くの教育問題に直面している.独裁政権下では学校は取り壊され,教員などの知識人は虐殺され,子供達が教育を受けることはなかった.現在のカンボジアは独裁政権の大虐殺の影響で国民の平均年齢は 24 歳ととても若く,多子若年化社会となっている.そのため教員の数が子供の数に追いつかず,自国の力のみではこの問題を解決できずに外国人ボランティアに頼っているのがカンボジア教育の現状である.また現在,子供達の親に当たる世代がちゃんとした教育を受けていないため教育への理解が乏しく,学校に行かせてもらえない子供達がいるという事も大きな問題点ある.

２−２．発展が期待されるカンボジア

内戦の終結による治安回復,さらに国道や空港など観光地を周辺とした地域のインフラ整備に伴い,観光業を中心にカンボジア経済は成長が見られる.経済成長率は日本に比べて高く,多くの海外企業が参入している.

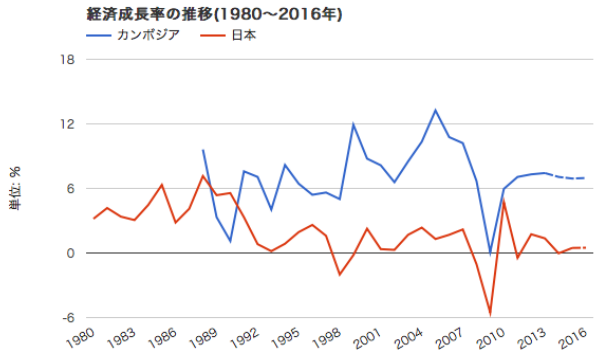

Figure1. GDP Comparison of Cambodia and Japan

またカンボジアにおける 3 大産業は農業,縫製業,観光業の３つである.日本の GDP に対する観光業の比率がほんの 3%なのに対して,カンボジアの GDP に対する観光業の比率は 15%以上である.それに伴ってカンボジ政府はサービス業,資源保護などに積極的に多額の投資をし,総力で観光業の成長を促している.その一方で観光業がアンコールワット遺跡郡に依存しすぎていることを懸念し,近年,政府は新たな観光名所の開発に力を入れている.

２−３.水と生きるカンボジア

カンボジアの気候は１１月～４月の乾季と５月～１０月の雨季に分かれる.シェムリアップ州にあるアジア最大の湖トンレサップ湖では雨季の海面上昇に伴い,水上のフローティングヴィレッジが構成される.これに対して陸では水との安全な共存がなされおらず,内陸ではス

1:日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.
2:日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture & engineering, CST., Nihon-U.

コールによる洪水被害が多発する.そのため雨季にはツーリストの数が減少する.カンボジアの人々にとって雨は農業や生活に欠かせない水資源の一つである一方で,観光業にはツーリストの減少という問題を引き起こしている.

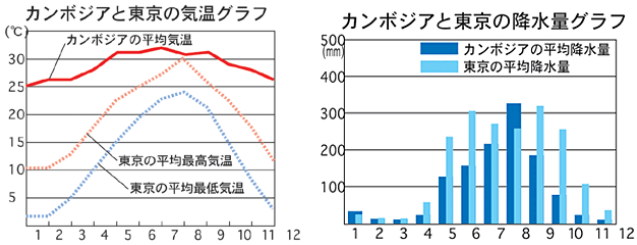

Figure2. Comparison of Japan and Cambodia of climate

３．　計画方針

３−１．ツーリストによる建築機能

村に宿泊機能を取り入れることでツーリストを呼び込む.このツーリスト達へ村人はカンボジアならではのローカルな暮らしを提供する.これに対してツーリストは子供達への教育を行うことで村に還元していく.

３−２．雨季を活かした設計

雨季に減ってしまうツーリストに対して,新たな雨季を生かした過ごし方を提案していく.これにより年間を通じて気候に関らずツーリストを村に呼び込む.

４．　基本計画

４−１.敷地選定

以上のような計画背景及び計画方針によって以下の敷地選定条件を設ける.

（１）観光業の盛んなシェムリアップ州中心街から車で２時間以内の場所（２）教員不足が著しい場所（３）内陸で雨季の雨水が活用されていない場所（４）外国語教育が現在行われていない場所（５）子供の数が多い場所

４−２.計画敷地

選定条件より,カンボジアシェムリアップ州の中心街から西に約５０km 先にあるコムルー村を選定した.この村には約５０世帯の人々が暮らしていて,その半分が１８歳以下の子供である.

Figure３. Where is Comulu village

５．　建築計画

５−１.導入機能

本施設では教育機能（学校）,宿泊機能（コテージ・民泊施設）,生活機能（食堂・大浴場・売店）,体験機能（縫製業体験・農業体験）,管理機能（貯水機能管理・施設管理・観光案内所）を主要機能として取り入れる.

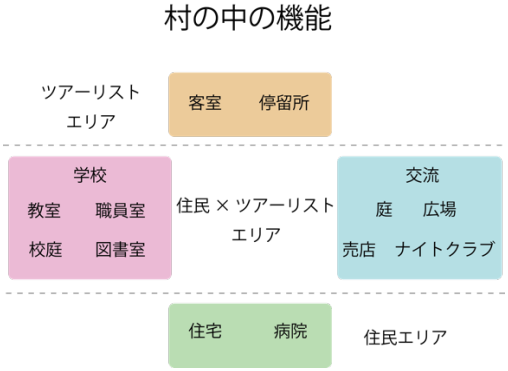

Figure４.Function in the village

５−２.配置計画

以下の配置計画図のように村の中心部から１本の回廊を通し、貯水池を張り巡らせる。それぞれの住戸（図内：赤）はそれぞれ回廊に面するように配置、教育施設（図内：黄）は村全体に散りばめて配置、交流スポット（図内：緑）は回廊同士の交点に配置する。

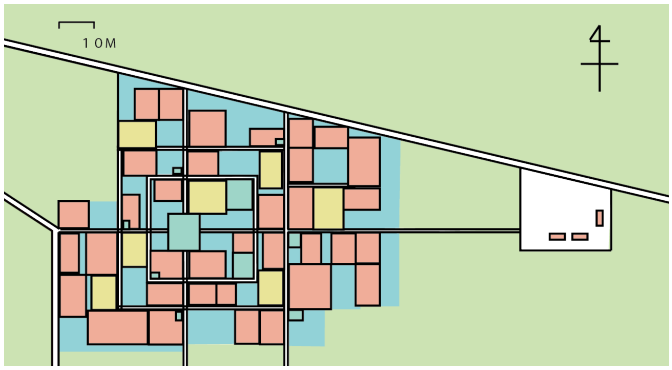

Figure５．　Layout drawing

５−３.全体計画

本計画では農村部にツーリストを誘致し,教育を行ってもらうことで教育問題を解決するとともに,この村自体がローカルなカンボジアの暮らしが堪能できる新たな観光名所となることを最終形態とする.

６.参考文献

[1]http://ecodb.net/exec/trans_country.php?type=WEO&d=NGDP_RPCH&c1=KH&c2=JP&s=&e=

[2] http://www.arukikata.co.jp

[3]Google earth